（様式５）

8　学校アクションプラン

平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－１－		
① 重点項目	（１）教科指導の充実	
② 重点課題	学習意欲の向上と授業改善	
③ 現　　状	・普段、家庭での学習を全くしていない生徒が多い。学ぶ意欲を育て、自ら学び続ける等、学ぶ姿勢の改善に向けた働き掛けが必要である。 ・生徒の学習意欲の向上を図るため、生徒による授業の評価や互見授業を実施し、分かりやすい授業への取り組みが必要である。 ・式の変形や単位換算等、基礎的な知識に欠けている生徒が多い。 ・４月に実施した本校独自の基礎計算力テストにおいて、その正答率が５９．８％と昨年より２％下がっており、工業系専門高校として授業や専門科目の指導に支障をきたすおそれがある。 ・各学科において、それぞれの専門に関する検定や資格取得に向けた補習などを行っている。 ・全教科目においてシラバスを生徒に公表し、分かりやすい授業の実施に取り組んでいる。	
④ 達成目標	①互見授業の実施回数	②生徒による授業評価の実施回数
	年１回以上	年３回（各学期１回）
⑤ 方　　策	・授業改善を行う単元を明示して１・２学期中に１回以上の互見授業を実施する。 ・他の教員の授業を多く参観し、授業改善の参考とする。 ・シラバスの充実と活用により、より分かりやすい授業の実践に取り組む。	・生徒による授業評価を各学期に１回実施する。 ・授業の改善に向けたアンケートとなるよう、評価の内容を検討する。
⑥ 達 成 度	互見授業の実施は２月３日現在４９名１００％の実施をみている。	１学期での実施は３９名８０％２学期では４５名９２％の授業評価が実施された。３学期は現在進行中であり、４名の実施にとどまっている。
⑦ 具体的な取組状況	学校訪問時に３４名、６９％の実施がなされ、その後１６名、３１％の実施があった。 生徒の実態アンケートを行い、実態把握のもと授業改善に努める。	統一的な授業評価は難しいが、評価表のサンプルを作製し、評価実施の向上を図る。
⑧ 評　　価	B	C
⑨ 学校関係者の意見	互見授業の１００％実施は素晴らしい。 教科指導は生徒に如何に興味関心を持って授業を聞いてもらうかが第一である。	生徒による授業評価も大切だが、まず、先生自身が真剣にどう興味関心を持たせるかを考える事が重要である。専門と関連した実際的な指導が有効である。
⑩ 次年度へ向けての課　　題	一部の互見授業が３学期に実施され、早い段階での授業への改善に繋がらなかった面があった。 この事から次年度は１・２学期中に互見授業週間を設置し、早期の事業改善に取り組む。	授業評価表を、少しの変形で座学や実習・課題学習など、幅広くの学科、教科に活用できるような形式を検討し、提案する。

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－２－		
① 重点項目	（２）生徒指導の強化	
② 重点課題	生活の乱れによる遅刻・欠席・早退をしない規則正しい生活指導	
③ 現　　状	・昨年度から月３回以上遅刻した生徒には、個別指導を行っている。また、朝の校門指導を行い、遅刻の防止に努めている。 ・昨年度の総遅刻数は５７６回、生徒１人当たりの年平均遅刻回数は０．９７回であった。	
④ 達成目標	年間総遅刻回数の減少	
	年間総遅刻数　５１０回以下	
⑤ 方　　策	・年間を通しての全教職員や校風安全委員による「あいさつ運動」を行い、啓蒙活動を実施する。 ・遅刻防止に対する意識を高める標語やポスターの掲示を行い、生徒の意識の高揚を図る。 ・担任、学科、部顧問等との連携を密にし、遅刻者の減少を図る。 ・遅刻、月３回以上の生徒への面接指導の充実。	
⑥ 達 成 度	・１月末日現在の遅刻総数は４５８回で、昨年度同月までの遅刻総数５０９回に比べ１割減となっており、今のところほぼ目標通りとなっている。 ・生徒１人あたりの年平均遅刻回数は１月末現在で０．７７回となっており、１日あたり２．８人の生徒が遅刻していることになる。	
⑦ 具体的な取組状況	・全教職員や校風安全委員による「あいさつ運動」を毎週３回（火、水、金）８時から８時２０分の時間帯で実施し、啓蒙活動に努めた。 ・遅刻を月３回以上した生徒へ面接指導を行い、その後、その生徒の遅刻回数が減った。 ・朝のＳＴ時において、わずかな時間であっても、遅刻は遅刻であるとし、厳格な遅刻指導を担任の先生にお願いしている。 ・天候が悪いときなどは、いつもより早く自宅を出るよう指導している。	
⑧ 評　　価	Ｂ	今後も遅刻のより一層の減少に取り組んでいきたい。
⑨ 学校関係者の意見	生徒指導の取組みは素晴らしい。目標は達成されそうなので評価はＡでも良いのではないか。 さらなる目標達成のためにも成果をもっとアピールして良いのではないか。 遅刻は本来「０」を目標とすべきだ。遅刻の理由をしっかり聞いてやること、家庭へのフィードバックをすることなどで効果が上がる。 遅刻指導の１割減は評価できる。あいさつ運動の力も大きい。 あいさつは浸透していると感じている。 具体的な数値などを生徒会だよりなどに掲載して、情報を共有するのも一方法である。	
⑩ 次年度へ向けての課　　題	・遅刻をする生徒が２．８人／日おり、まだまだ基本的生活習慣が身についていない。担任をはじめ、全職員の協力のもと粘り強く取り組んでいかなければならない。 ・生徒の意識付けとなるよう無遅刻週間を学期ごとに数回実施する、あるいは無遅刻の日、無遅刻の曜日を設けるなどの具体的な運動の実施を考えたい。	

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－３－		
① 重点項目	（２）教育相談の充実	
② 重点課題	メンタルヘルスケアの充実	
③ 現　　状	・教育相談室が、生徒や保護者にとって身近な存在とは言えない面がある。 ・近年の生徒の悩みは多岐に渡り、解決にはできるだけ早期の専門家による適切なアドバイスが欠かせない。 ・学校不適応の生徒が見受けられ、心の問題についての理解と問題の早期発見に努める必要がある。	
④ 達成目標	臨床心理士による職員の校内研修の実施	
	年２回の実施	
⑤ 方　　策	・「教育相談室だより」を年２回以上発行する。 ・臨床心理士による職員研修を年２回実施する。 ・心の問題に関するアンケートを実施する。	
⑥ 達 成 度	・「教育相談だより」を発行し、保護者会で配布した。 ・学校不適応の生徒や心に問題を抱える生徒に関する総合教育センターの研修会に３回参加した。 ・生徒の個別相談をのべ８５回行い、相談に訪れた生徒一人ひとりの話をよく聞き、その生徒に応じたアドバイスをしてきた。 ・保護者の方の相談にも面談や電話で、のべ１０回応じてきた。	
⑦ 具体的な取組状況	・「教育相談室だより」を発行して、相談室の利用法などを紹介した。また、それに生徒の文章を掲載することによって、今どきの高校生が何を考え、何を悩んでいるのかを、保護者の方にも理解してもらうよう努めた。 ・学校不適応の生徒のクラス担任や保護者やカウンセラーと連絡を取り合い協力して、生徒を支えるよう援助した。 ・相談室なら登校できる生徒を、しばらく相談室登校させ、クラス担任と協力し、時機をみてクラスへ無事戻すことができた。	
⑧ 評　　価	C	三学期に教員を対象とした校内研修会を行いたい。
⑨ 学校関係者の意見	青年期の子どもたちにとって相談の一歩が大切ではないか。 相談室なら登校できる生徒を、クラス担任と協力しながら、時間を掛けてクラスへ無事戻すことができた事は素晴らしい。 全国的に小中学校で保健室登校が増えていると聞く。実態を把握し、その対応に、これからも相談室での指導をお願いしたい。 教育相談室が身近な存在となり気軽に相談できるなどのきっかけつくりが大切ではないか。	
⑩ 次年度へ向けての課　　題	・学校不適応や深刻な心の悩みの場合、学校の対応だけでは不十分であり、専門的な相談機関や医療機関との連携が必要となる。そのためには、学校の教育相談室担当者がその必要性を生徒本人や保護者にしっかりと説明し、理解を得ることが大切である。学校と家庭と専門機関がそれぞれ連絡し合い、協力し合ったとき、事態は望ましい方向へと動き出し、解決への糸口が見い出される。 　来年度も学校と家庭と専門機関との連携を図り、身近な相談相手として、生徒や保護者との関わりを深める。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－４－	
① 重点項目	（３）進路指導の充実
② 重点課題	自らの勤労観・職業観に基づいて、主体的に進路選択する力の養成
③ 現　　状	・職業観・勤労観に対する意識が明確でない生徒が多く、自分自身の特性について真剣に考えられない生徒がいる。 ・将来にわたる生活設計を描くこともなく、ただ漠然と過ごしている生徒が見受けられる。 ・就職の先延ばしのための進学を考えている生徒がいる。 ・進学を希望するが、大学入試レベルの学力が身に付いていない生徒が見られる。 ・昨年度は、１学年１１月末の進路未定者が、１１．５%であった。
④ 達成目標	早期の進路決定
	１学年末の進路未定者５%以下
⑤ 方　　策	・インターンシップや進路講話（外部講師、先輩、保護者）を通して、キャリア教育の推進を図る。（年１回以上の進路講話の開催） ・進路に関するＬＨやガイダンス等の充実により、将来について真剣に考える機会を与える。 ・２年生全員によるインターンシップをより充実し、その満足度を高め、早期からの望ましい勤労観や職業観を身に付けさせる。 ・各学科の専門性を生かしながら、受け入れ企業の開拓に努める。 ・進学希望者には早期から、「絵画実技講座」や「基礎学力養成講座」等を実施する。 ・進学希望者の学力補充に対して、学校全体での取り組みとなるシステムの構築を推進する。
⑥ 達 成 度	・インターンシップで生徒の職業観は高まっている。 ・厳しい雇用状況のなか、３学年の就職希望者全員が内定した。 ・就職内定者１０７名、国公立大学合格者は富大４名、富県立大３名。 ３年生　就職者 55 %　進学者 45 % ２年生　就職希望者 43 %　進学希望者 53 %　未定者 4 % １年生　就職希望者 46 %　進学希望者 31 %　未定者 23 % （2 年生の就職希望率が低くなっているのは、不況の影響がある）
⑦ 具体的な取組状況	・１学年生徒へ「生きること働くことの喜び」と題した企業経営者の講演を実施した。 ・２学年全員が７４の事業所でインターンシップを行った。 ・３学年就職希望者１００余名が希望先企業の業務内容・仕事内容を確認のために工場見学をした。 ・PTA 懇談会、３学年進路懇談会で進路指導方針、進路状況等を保護者に説明した。 ・２、３学年の美術系進学希望者に「絵画実技講座」を実施した。 ・３学年工学系進学希望者に「数学基礎力養成講座」を実施した。
⑧ 評　　価	C　　1 年生が、進路について考える機会をもっと多くしたい
⑨ 学校関係者の意見	職場体験では勤労観を先輩が「生」の声を伝えられる。授業と如何にタイアップさせるか大切である。 進路指導が充実している。生徒の就職後のアフターケアやフォローも必要になってきているのではないか。追跡調査をしてはどうか。
⑩ 次年度へ向けての課　　題	・来年度は、厳しい雇用状況が予想される。就職先が、大企業だけに集中することなく（20 年度は 57 %が大企業）、生徒の興味・関心が県内の中小企業へ多くなるように情報の収集し、生徒へ伝達することが重要となる。

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="5">平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－５－</td></tr>
<tr><td>① 重点項目</td><td colspan="4">（４）特別活動の活性化</td></tr>
<tr><td>② 重点課題</td><td colspan="4">部活動内容の満足度と学校行事の充実感の高揚</td></tr>
<tr><td>③ 現　　状</td><td colspan="4">・生徒の部活動加入率は８５％以上を維持しており、その活動は本校教育活動の大きな柱となっている。
・活発な活動が行われ、優秀な成績を収める部活動も多いが、反面、中途退部や自主性が低い等の悩みをのある部活動も見受けられる。
・活動場所や器具等の環境が整備されていないところがある。
・多くの生徒は積極的に学校行事に参加しているが、一部に主体性の格差が見られる。
・定着している学校行事は形骸化が見られ､新たな改善が必要である。
・生徒会活動は、定例化しており、一層の自主性を持たせるように指導する。
・安全な活動のために、常に思慮深く計画立案し、実行している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">④ 達成目標</td><td colspan="2">① 部活動内容の満足度</td><td colspan="2">② 学校行事の充実感</td></tr>
<tr><td colspan="2">８０％</td><td colspan="2">８０％</td></tr>
<tr><td>⑤ 方　　策</td><td colspan="2">・集会や生徒会だよりを通じて、大会日程やその成果を掲載し、学校全体の雰囲気や生徒の気力を高める。
・定期的に各部長への激励と助言を行い、活動内容の把握や安全指導を行う。
・部顧問間の連帯や家庭との連携を支援し、活動環境を整備しつつ、部活動の強化を推進する。</td><td colspan="2">・過去２年間のアンケート調査結果を分析し、企画と運営の改善を図る。
・生徒会を中心に生徒の意見を採り入れ、生徒の期待に応えられる企画・運営を行う。
・教職員の役割体制を見直し、連携の強化と協力の推進を行い、行事内容の充実化や実施要領の簡素化に努める。</td></tr>
<tr><td>⑥ 達 成 度</td><td colspan="2">・今年度も生徒は運動部､文化部､日頃の学習など様々な活動で、めざましい活躍や成果を示しており、年度末の満足度アンケート調査では目標達成に期待が持てる。
・傾向として、団体の表彰は少なくなっているようである。</td><td colspan="2">・伝統ある三大行事（運動会、尚美展、球技大会）は天候にも恵まれ、生徒の高い満足度を知ることができ、とても喜んでいる。
・生徒会や先生方のより良くしようという企画、運営の成果だと推察し、深く感謝している。</td></tr>
<tr><td>⑦ 具体的な取組状況</td><td colspan="2">・学校行事が多い中、表彰伝達や壮行会を全校で行っている。
・生徒会は「生徒会だより」で、先生方は連絡会、集会等で積極的な激励を行っている。
・さらに満足度を高めるために、生徒の活動を支援していきたい。</td><td colspan="2">・生徒会リーダー研や事前アンケートにより競技種目の考察や企画運営が順調に行われた。
・新企画「尚美モール」による地域性の重視やイベントの創意工夫を先生方や生徒が行った。
・PTA に模擬店協力いただいた。</td></tr>
<tr><td>⑧ 評　　価</td><td>B</td><td>先生方の指導により、生徒は様々な場面で活躍し､良い経験をしている。</td><td>A</td><td>伝統行事に生徒のひたむきな姿勢と高い満足度が見られ良かった。</td></tr>
<tr><td>⑨ 学校関係者の意見</td><td colspan="2">すばらしい取組みである。今後も継続して欲しい。</td><td colspan="2">活動の成果は素晴らしい。
新聞などでの資格取得の報道はうれしい｡先生方の熱心さが窺える。</td></tr>
<tr><td>⑩ 次年度へ向けての課　　題</td><td colspan="2">・様々な活躍を多くの場面で評価してやりたい。生徒が安全に元気で活動できる環境整備を行う。</td><td colspan="2">・生徒会を中心に行事企画を進化させ、運営する生徒役員の配置や業務内容を改善したい。</td></tr>
</table>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－６－		
① 重点項目	（４）読書指導の充実	
② 重点課題	図書館利用の充実と読書率（図書貸出し数）の向上	
③ 現　　状	・昨年度の図書貸出し数は、延べ１，２３６冊、一人平均の貸出し数は、２．１冊である。 ・年１回の読書会への参加が、図書委員以外の参加者が少ない。	
④ 達成目標	生徒１人当たりの年間図書貸出し数	
	３．０冊以上	
⑤ 方　　策	・図書館だよりの発行（年９回）や読書会（年２回）、朝読書（年２回）等の開催により、読書に対する意識の高揚と定着を図る。 ・ポスターの掲示や図書館を活用した授業の推進を図り、図書館を身近なものとして、活用しやすい雰囲気作りに努める。 ・国語科との連携により、読書習慣の意識の高揚と定着を図る。 ・読書会の開催を年２回とし、生徒の読書に対する関心を高める。	
⑥ 達 成 度	・図書貸出し数は、１２月現在で７６３冊である。生徒平均が１，２冊となるが昨年と比較し低迷している。放課後等の来館者が以前より減少していることもあるが、昨年度からのパソコン設置により、生徒の必要とする情報が手軽に入手できる環境が整った反面、読書離れの一因となっているのではないかと考えられる。	
⑦ 具体的な取組状況	・年度当初に計画した読書推進に関わる取り組みは予定通り行っている。「図書便り」における生徒への広報活動も見直しと整備を図ってきた。また、「読書会」の開催、学期末の「朝読書」の実施など従来と遜色のない活動を行っているが、数字上では思ったほど貸出し率に伸びが見られないのが現状である。読書は生徒の自立的な活動であるだけに、近年の活字離れの風潮に対し抗しがたいものがあるように思われる。	
⑧ 評　　価	C	教科との連携を深め、読書への関心を高めていきたい。
⑨ 学校関係者の意見	遅刻が多いことと読書量が少ないことへの対策をタイアップさせてはどうか。 朝読書の期間をもっと長く２週間ほどにしてはどうか。 図書館の蔵書が多いのに驚いた。もっと利用すべきであり、是非指導を継続して欲しい。閉館時間はもう少し遅い方が良い。	
⑩ 次年度へ向けての課　　題	・図書貸出し数は、１月末現在で９７２冊である。年度当初の目標値に及ばないにせよ、平均が１，６冊となり１２月（１．２冊）の調査に比較し伸びが見られた。これは学期末に実施した朝読書が契機となり継続的な読書に繋がったことなどが考えられる。 　次年度は読書推進に関する更なる広報活動を工夫するとともに、単に生徒の自主性に任せた図書利用に留まらせることなく、授業における図書館活用の頻度を高めること、また国語科との連携により読書感想文等の課題提出など、他律的な読書環境の整備を行い、生徒が本に触れ合う機会を能動的に構築していく必要があるように思われる。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

平成２０年度　高岡工芸高等学校アクションプラン　　－７－	
① 重点項目	（５）ＰＴＡ活動の活性化
② 重点課題	ＰＴＡ役員会への出席と積極的な活動の実施
③ 現　　状	・名前だけの役員が多く、役員会や各種会合への出席率が低い。 また活動も消極的である。 ・ＰＴＡの各行事に参加する保護者の割合が低い。 ・生徒を通じて、ＰＴＡ行事の案内をしても、生徒自身が重要性を認識していないため、保護者に渡らない場合がある。
④ 達成目標	ＰＴＡ役員会への「出席率」
	５０％
⑤ 方　　策	・役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすい役員会、会合等の持ち方を検討する。 ・各会合への役員の関わり度を増加し、活性化を図る。 ・年度末に活動を振り返ってのアンケートを実施し、その満足度を調査する。 ・教育・安全情報共用システムへの加入率を高め、メールマガジンを活用した情報の共有を推進する。 ・尚美展や授業参観等の学校行事に合わせたＰＴＡ行事を計画し、保護者の参加をお願いする。
⑥ 達 成 度	４月～１月までに計１１回の正副会長会議や各委員会などの役員会が行われた。少人数で全員参加の会合もあれば参加が数人の会合もあったが、各会合の出席率を平均すると約５４％だった。また、役員で行った尚美展の模擬店では７１％の参加があった。 会員全体を対象としたＰＴＡ行事では、総会が１２％、他の行事は２０名前後の参加だった。アンケートは進路研修会と教養講座について行い、参加者の満足度は概ね良好であった。
⑦ 具体的な取組状況	・役員間で連絡先(tel)を確認してもらった。また、役員会は夜７時半から始めることとした。 ・役員会等の進行などは保護者役員にしてもらうこととした。 ・PTA 行事案内をメールマガジンで流したり、案内状を見やすくするなど工夫をした。 ・総会時の授業参観に全員が参加できるよう、時間帯を工夫した。 ・会合の案内はできるだけ余裕を持って配付し、担任にも生徒を通じて複数回の確認をしてもらった。
⑧ 評　　価	B
⑨ 学校関係者の意見	ＰＴＡ活動はなかなか役員同士の顔が見えない。また先が見えない活動である。もっと親一人ひとりに内容の濃いリアルタイムの情報提供が重要。身近な情報を定期的に流せば学校がより近いものになり、足を運ぶ機会も増えるのではないか。
⑩ 次年度へ向けての課　　題	・次年度役員体制の早期確立のため、年度末年度当初の日程調整と早めの連絡を行う。 ・「教育・安全情報共用システム」への加入をより進め、役員会についてもメールマガジンに流して注意を喚起する。 ・より一層魅力的で参加し易い行事の計画立案に協力・努力する。

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）